特集：企業内診断士，定年後の世界

第３章
【定年前】
新たな人生のステージで地元へ貢献したい
藪内 信昭さん

森本　哲哉
東京都中小企業診断士協会城西支部

生まれ育った石川県金沢市で企業内診断士として活躍中の藪内信昭さんに，地方在住の診断士の観点も交えて定年についてお話を伺いました。

【藪内信昭さんの略歴】
1959年生まれ
1984年：地元の百貨店入社（24歳）
　　営業関連業務に従事
2007年：経営企画部門へ異動（48歳）
2016年：中小企業診断士登録（57歳）
2017年：社会保険労務士試験合格（58歳）
2019年：定年（60歳）予定

１．50歳代になって初めて定年を意識

大学時代は東京で過ごしたものの，卒業後は帰郷し地元の百貨店に入社した藪内さん。入社後は，子供服，外商（得意客の外回り），食品などの営業関連業務に24年間従事されました。最も長く在籍したのが，「デパ地下」といわれるデパートの地下の食品売場で，14年間担当しました。

その後，48歳のときに経営企画部門に異動し，現在までの10年間，経営方針・年度計画・年度予算の企画立案などを担当されています。

20歳代から40歳代まで営業の第一線で活躍していた藪内さんですが，その当時は定年について意識したことはほとんどありませんでした。

「当時の関心事といえば，目の前の仕事と家族のことくらいでした。会社の同僚とも定年について話したことは，あまり記憶にないですね」

ところが，そんな藪内さんも50歳を過ぎ，勤務先の定年である60歳までの期間が10年を切ってくると，現実の問題として否が応でも定年を意識せざるを得なくなりました。

それは，単に今の勤務先で60歳になったら退職しなければならないということだけではなく，その後の人生のあり方に関する思いで

生まれ育った石川県金沢市で企業内診断士として活躍中の藪内さん

した。

「私には60歳で仕事から離れるということが，どうしても想像できませんでした。経済的な理由は働き続けるうえで誰にとっても大きな要因かと思いますが，一方で生きがいという観点からも60歳を超えてからも働き続けたいと思いました。会社に定年はありますが，人生には寿命はあっても定年はないわけですから」

藪内さんは，定年後の人生に自信を持って生きていくために，60歳の定年を迎えるまでにしっかりと準備をしていこうと決意します。

2．転機になった診断士試験

そんな中で出会ったのが診断士の資格でしたが，そもそもの取得のきっかけは定年後のためではなく，仕事上の必要に迫られたためでした。

入社以来の24年間，営業の最前線で会社に貢献してきた藪内さんにとっては，経営企画部門はまったくの未知の世界。営業のプロではあっても，経営や企画のプロではありませんでした。

「当時は，損益計算書すら満足に読めない状態でした（笑）」

危機感を覚えた藪内さんは，まずは財務や経営に関する書籍を読むことから始めましたが，やっていくうちに独学の限界に気づきます。そこで，それらのビジネススキルを身につけるのに良い方法はないかと探していたところ，診断士の資格と出会ったのです。

「診断士は１次試験と２次試験を合わせると，企業経営からITまで幅広く学ぶことができるため，経営企画部門の担当者にとっては大変親和性の高い資格です。これだ，と思いました」

これらの仕事上の利点に加えて，コンサルティングに関する唯一の国家資格である診断士は対外的な信用力も高く，定年後にも十分役立つと思い，藪内さんは受験勉強を開始しました。

仕事をこなしながら，大手資格予備校の通信講座を受講し，2015年度の試験で合格。東京での実務補習を経て，2016年，57歳のときに登録し，一般社団法人石川県中小企業診断士会に入会します。

診断士合格時点で，当初の目的である仕事上のニーズと定年後の準備の両方は達成したのですが，藪内さんのすごいところは，中小企業診断士登録直後から社会保険労務士の勉強を開始したことです。

その理由は，日々の業務や診断士の試験勉強に取り組む中で，人事労務分野の専門的なスキルをもっと強化することで，勤務先だけでなく日本企業全体の課題である「働き方改革」の取組みにも参画することができると考えたからです。当然，定年後にどんな仕事をする際にも役に立ちます。

こうして，診断士試験と同じように資格学校の通信講座を受講し，見事，2017年に合格しました。

3．診断士受験が社内に与えた影響

ここで定年の問題から少し離れますが，藪内さんが診断士受験に取り組んだことで，社内に与えた好影響についても触れます。読者である企業内診断士の皆さんにも社内で活動するうえで，大いに参考になると思います。

具体的には，現在の仕事に対する直接の影響と，社員の人材育成やモチベーションアップに関する影響の２つです。

仕事に関しては，業務を進めるうえで，社内でも社外でも藪内さんの意見が「経営の専門家の意見」という受け取り方をされるようになりました。そのため，かえって不用意なことは言えなくなり，藪内さん自身が日々研鑽を続け，それを社内に還元することで経営の意思決定のスピードや質が上がっているそうです。

さらに，部下の方々にも仕事で絶対に役立つからと受験を勧めており，一部の方は受験を目指し始めています。

「私が合格するくらいなので，『自分もできる』と思っているのかもしれません（笑）。簡単な試験ではありませんが，１人でも多く診断士の仲間が増えると，会社にとっても石川県にとっても良いことだと思っています」

ちなみに，藪内さんは社内で受験を公言して試験に臨みました。あえて周囲に話すことで自らを鼓舞したわけですが，藪内さんの目標達成に対する意志の強さを物語るエピソードです。

４．定年後の新たなステージへ向けて

⑴　３つの選択肢

企業内診断士の定年後のキャリアとしては，一般的には，現在の勤務先での継続雇用，転職，独立の３つの選択肢が考えられます。藪内さんとしては，長年にわたって勤務している現在の会社に強い愛着を持っており，引き続き会社の発展に貢献できるという思いはあります。

一方で，定年後という新しい人生のステージでは，１つの会社の枠にとどまらず，地域社会に貢献できるコンサルティングをやりたいという気持ちもあります。

つまり，現時点では決めておらず，今年１年間をかけて，どの方向に進むのかをじっくりと考えるつもりです。

余談になりますが，皇位継承が2019年５月に行われることになりました。皇太子殿下と同学年の藪内さんにとって，皇位継承と改元の年に自分の定年が重なることは感慨深いものがあるそうです。

「以前の日本社会であればほとんどの人が引退した年齢に，こうして新しい人生のステージに立つことになるのは，大変身が引き締まります」

皇位継承の日程が決まったことで，日本の中小企業の事業承継が加速するのではないかともいわれていますが，経営者以外の方も人生について見直す機会になるかもしれません。

⑵　地元への貢献を強く意識

定年までの残り１年余りでどの道を選択するかを決めなければなりませんが，どのキャリアであっても，藪内さんとしては少しでも地元に貢献したいと考えています。

「言葉にすると少し気恥ずかしいですが，この年齢になると生まれ育った金沢市や石川県の役に立つことをやりたいという思いは強くなりますね」

その背景には藪内さんの強い危機意識があります。少子高齢化と人口減少は日本全体の現象ですが，そのスピードは大都市圏より石川県など地方のほうがかなり進んでいるというのが藪内さんの認識です。

北陸新幹線の金沢までの延伸効果もあり，観光関連業界は活況を呈していますが，それ以外の産業や業界を幅広く補えているわけではありません。しかも，日本全体では東京への一極集中といわれていますが，石川県内では「金沢市への一極集中」が鮮明になっているのです。

つまり，石川県の金沢市周辺以外の地域では若者が定着しないため，個々の企業では事業承継が進まず，その地域を支える産業が弱体化し地域も衰退するという現実に直面しています。

地方創生のためには，事業承継や働き方改革を進めることで働く場を維持・拡大していくことが大切です。この点で診断士と社会保険労務士の資格，そして百貨店での業務経験や知識などを生かすことができると藪内さんは考えています。

インタビューの中でもこの部分を語る藪内さんの表情は真剣そのものであり，新しい人生のステージでは，自分のためだけではなく，生まれ育った地域に恩返しをしたい，という意気込みを強く感じました。

5．40歳代以下の方々へのアドバイス

今回のアンケートにご回答いただいた企業内診断士のうち，72％が40歳代以下でした。そこで，年齢的には先輩にあたる藪内さんに，40歳代以下の方々に向けてのアドバイスを伺いました。

まずは，定年まで時間的余裕があるので，定年後のこともさることながら，診断士の活動を通じて自分自身のスキルアップにつなげることを考えるべきと，藪内さんは勧めています。

そのうえで，勤務先の会社にその成果を還元したり，あるいは転職や独立する方向性も考えてみたりしてはどうかとのことです。

最後に，藪内さんらしいメッセージをお伝えします。

「診断士は，派手さはありませんが，その企業を良くするために活動することで，雇用が生まれ，消費が増え，税収も増え，最終的に地域経済の活性化に貢献できる資格だと強く感じています。若い世代にこのような意識で活動していただくと，日本の地方の未来も明るくなると信じています」

石川県の名所・兼六園（写真提供：金沢市）

藪内　信昭
（やぶうち　のぶあき）
1959年石川県生まれ。早稲田大学社会科学部卒業後，地元の百貨店に勤務。外商や食品部門などを担当し，現在は経営企画部門を担当。2016年中小企業診断士登録。ほかに社会保険労務士試験合格。

森本　哲哉
（もりもと　てつや）
1965年大分県生まれ。中央大学法学部法律学科卒業。金融機関にて，マーケット業務，融資業務，企画・総務業務などを担当。2016年中小企業診断士登録。企業内診断士として活動中。ほかの資格は，日本証券アナリスト協会検定会員，証券外務員正会員一種，Affiliated Financial Planner。